



2022年3月15日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 メ ド レ ッ ク ス
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 松 村 米 浩
(コード番号：4586 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 経 営 管 理 部 長 藤 岡 健
(TEL. 03-3664-9665)

日本薬学会 第142年会における発表のお知らせ

2022年3月25日～28日に開催される日本薬学会第142年会において、当社と徳島大学が共同で実施した研究成果が発表されることになりましたのでお知らせいたします。

◇日本薬学会 第142年会 開催概要

会期：2022年3月25日～28日、オンライン開催

URL：<https://confit.atlas.jp/guide/event/pharm142/top>

◇当社と徳島大学との共同での発表演題

イオン液体を用いた経皮吸収ワクチンによる皮膚およびリンパ節における免疫細胞の活性化評価

【概要】

(目的) 近年、がん抗原に対して特異的な免疫反応を誘導できるがんワクチンが注目されている。従来の皮下投与に比べて、免疫反応を増強するために抗原提示細胞が多く存在する皮膚を標的としたワクチンが注目されてきている。以前、我々は角質層透過性を持ち経皮吸収促進剤として利用できるイオン液体にアジュバントとがん抗原模倣ペプチドを溶解させたワクチンを調製し、有意な腫瘍増殖抑制効果が得られることを示した。本検討では、腫瘍増殖抑制効果が得られたメカニズムを明らかにするために、貼付部位の皮膚および流入リンパ節での免疫細胞の存在割合の変化を経時的に評価した。

(結果・考察) 腫瘍増殖抑制効果が得られたメカニズムとして、R848-ILs (アジュバントである Resiquimodを含むイオン液体) によって皮膚免疫細胞が増加し、そこにOVAp-ILs (がん抗原模倣ペプチドであるOVApを含むイオン液体) を貼付することで、皮膚でペプチドが抗原として捕捉される機会が増加すると同時にリンパ節へと運搬されやすくなり、結果として細胞傷害性Tリンパ球の活性化が強くなり、高い腫瘍増殖抑制効果に繋がったものと考えられた。以上より、イオン液体を利用したワクチン製剤は皮膚免疫反応の増強を可能とすることが示され、新規の非侵襲性ワクチンへの展開が可能であることが示唆された。

以 上